

飛騨牛

清らかな水と緑豊かな大地

生産者の愛情に育まれた 品質とおいしさを誇る

岐阜の名産、飛騨牛

清らかな水と澄んだ空気、そして緑豊かな大地。岐阜の自然に育まれる農畜産物と生産農家をシリーズで紹介いたします。第一回は今や日本を代表するブランド牛の一つとなった飛騨牛。甘みと柔らかい肉質が特長で白い霜が降りたような見事なサシは美しく、肉の芸術品と言われるほどの高級和牛です。日々、牛と向き合い、愛情を注いで良質な肉をつくりだす生産農家を訪ね、こだわりの飼育法や安全安心への取り組みなどをお聞きしました。



品質とおいしさを誇る飛騨牛

餌だけでは足りない こだわりの飼育法

「子牛を産ませるための雌と、肉牛としては耳も違います」と話す大坪光広さん(46)。下呂市萩原町で繁殖から肥育まで飛騨牛の一貫生産に携わっています。大坪さんの農場では牛の飼育状態を把握し、個別に対応。常に研究を続け、より良い肉質の牛を育てることに注力してきました。

「愛情をかけて管理することが大事。毎朝、昼、晩と様子を見て確認します」。餌が同じだとしても餌をやるタイミングや牛舎のつくりなどの環境や水によっても仕上がりが違ってきます。牛はデリケートな動物。常に気を配ってやる必要があります。その気遣いが肉に影響するのです。

一日たりとも休めない仕事。「盆正月もないし、毎日のことなので大変だなあと思うこともあります。でも餌ひ

本広告に関するご意見やご感想をお聞かせください。抽選で「飛騨こしひかり」5kgをプレゼント!

1袋5kg
10名様

※個人情報は賞品発送において使用し、適正に管理します。
※当選者の発表は、賞品の発送(翌月予定)をもってさせていただきます。

7月15日(金) 必着

①郵便番号・住所②氏名③電話番号
④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】〒500-8577(住所不要)
岐阜新聞 広告局
「ぎふの農業人」係

安福の血統を大切に 次の世代へ繋ぎたい

大坪さんがこだわっていることは安福(※)の血統。牛舎には牛の血統書が貼られていて、今いる牛の4代もしくは5代前にはいずれも安福の名があります。「肉質の良い牛が出たら、その雌を残して安福の血統と掛け合わせる」。繁殖から肥育まで一貫経営だからできることです。

「安福は岐阜の牛を有名にした牛。血統として残さなければならぬ」と思っています。これは自分一代でできることではなくて父の代から続けていること。できれば次の世代が引き継いでくれたらうれしいなと思っています」

安福の血統を絶やさず大切にしたい。「食べた人がおいしいと言ってくれる肉質にこだわりたい」と大坪さんは話します。

「うちでは父の代から意識しておとなしい血統を残しています。なぜなら構うてやるにも、近つかないと構ってやれないんでね。愛情を注いで育てることが大切だと思っています」

JAバンクのサポートで 事業拡大や設備投資も

「餌の購入から出荷まで全てJAにお世話になっていますし、事業拡大のための4つの牛舎も一ずつ作るたびにお金を借りました」と大坪さん。飛騨牛生産者にとって資金面のサポートは不可欠。「JAさんの後押しのおかげで牛に集中できます。事業のパートナーとしてなくてはならない存在です。最近では、畜産にも適用されたJAのアクリシードリースを利用し、分娩監視システムを導入。出産時の立ち会いによる分娩事故軽減に役立っています」

下呂市萩原町 大坪光広さん



牛の様子に気を配りながら餌をやる大坪さん



JAひだ本店前の安福像



JAひだ組合長 駒屋廣行氏から

組合長就任の際に掲げた「農家、組合員と共に歩むJAひだをつくる」を実践しながら、今後も消費者の皆さまの安全安心を守る農畜産物をお届けします。

JAバンクでは農家の皆さまへの運転資金、設備資金、新規就農に際しての支援など金融サービスの提供に加え、経営のためのコンサルティングにも注力しています。1対1でお話をさせていただきながら、オーダーメイドのサポートに一層力を入れて参ります。



耕そう、大地と地域のみらい。

飛騨の恵まれた自然環境と優れた生産技術が織りなす飛騨牛

生産者のこだわりが詰まった一品を届けたい。
地域の一員として地域の未来を見守るJA

